



## コロンビアの外国直接投資展望

Vale Columbia Center に於ける持続可能な国際投資  
現代的な外国直接投資問題視点

No. 82 2012年11月5日

編集長: Karl P. Sauvant (Karl.Sauvant@law.columbia.edu)

編集部部长: Jennifer Reimer (jreimer01@gmail.com)

翻訳者: Michelle Konov (michellekonov@gmail.com),

Lloyd Gronkowski (lgronkowski@gmail.com)

### 持続可能な開発を促進する為に持続可能な外国直接投資を評価する

John M. Kline\*

外国直接投資（FDI）の持続可能な開発を促進する役割に増加を求める助言は基本的に政策を働かします。つまり、中心は投資環境を向上させるマクロレベルに焦点です。そのような措置は必要ですが、単独で足りません。特にミクロプロジェクトレベルに効果的な実施プロセスも出資国の開発の優先順位とニーズと合わせる FDI を奨励する為に不可欠でございます。

UNCTAD の持続可能な開発の投資政策枠組み<sup>1</sup>は投資政策を作成する国内と国際との吏員を案内する為のコア原則を表しています。ある原則は FDI のプロジェクトを評価する為に開発の優先順位と FDI 貢献指数<sup>2</sup>を確立する必要性を認識することが有用な指示薬を含まれた出発点を提供します。ただし、この枠組みは FDI が持続可能性の基準を満たすかどうか評価する為の統合で適用された機構が提供していません。

---

\* John Kline (klinej@georgetown.edu) は Georgetown University の Walsh School of Foreign Service の国際ビジネス外交教授です。Henry Loewendahl、Howard Mann と Elisabeth Tuerk に査読することを感謝しています。この記事で紹介した意見がコロンビアと関係団体の意見と同じではないかもしれません。「コロンビア外国直接投資展望」(ISSN 2158-3579) は査読し出版します。

<sup>1</sup> UNCTAD、2012年正解投資報告：投資政策の新生代へ（ジュネーブ：UNCTAD、2012年）

<sup>2</sup> 同書、119-121頁

故に、欠落している構成単位は経済、環境、社会、統治との FDI 提案に複数の相互効果を評価する過程実装のツールです<sup>3</sup>。FDI の提案を評価する為にプロジェクトの査定するマトリックスを使うのはアプローチの一つです<sup>4</sup>。広く包括的な過程はトップ 5 つと二次的に 5 つを余分な協調を受けた重点の目標を選べられます。マトリックスは +/- 5 の範囲で国々の開発優先順位を表している値指示薬に FDI のプロジェクトの影響を評価します。指示薬は優先の重みと乗じる後で、最終のスコアが持続可能な FDI の望ましさについて累積評価を提供します。

対話的な効果を評価して、判断を比べられる為に、査定は非経済的な指示薬について定性的な判断を定量化します。現在、定量化しやすい景気対策は FDI の評価を支配するので、多い方がいい考え方が生まれます。規制はいくつかの環境査定を強制するけれど、基本的に同様な法的義務を事欠いている社会と統治との効果が見落されて、過小評価されています。皮肉的に景気対策はただの資する値で究極の価値が社会の生き方が富みやがらす方法を表す社会的な指標に反映されています。プロジェクト効果の総合的な評価に変わって、マトリックスは経済データの発揮している不均衡な影響が歯止めをかけます。

分かりやすい評価と評定制度を採用するのは評価の過程に透明性と包括性と奨励します。経済、環境、社会、統治との指示薬が盛り込まれるマトリックスは純便益の基礎を明らかにするによって、昇格を値する FDI プロジェクトを強調して、改善分野を正確に示して、予定されている政治汚職を思いとどまらせます。

FDI の促進と円滑化に捧げる希少な資源は重点の開発目標プロジェクトに確保されるほうがいいです。改良された査定のツールがプロジェクトの効果の全範囲を評価する限り、資源の配分は準最大や逆効果の結果を生ずるかもしれません。マクロ経済な措置を支配した FDI の促進は人々の命が直接に影響を与えるし、社会的等な影響も欠かすことを賭します。

---

<sup>3</sup> Columbia University の地球研究所のプロジェクト：Millennium Cities Initiative (MCI) はこの構成単位はアフリカに持続可能な FDI を促進するフィンランド資金された努力の間に識別しました。MCI はそれぞれの国の目標をフォロー為の 22 つの重要な開発目標を包含する評定形式と評価マトリックスを考案しました。マトリックスは南アフリカとケニアに政府権限と民間外国投資家と実地試験をしました。面接は FDI のプロジェクトの回顧的な評価を含まれて、例えば、範囲が鉄鋼や化学な工場とか、マツレスと糖蜜生産とか、切り花や養魚場などに含まれていました。

<sup>4</sup> マトリックス：John Kline 「持続可能な外国直接投資を評価する」監査調書第 12 つ、Millennium Cities Initiative ( ニューヨーク：Columbia University 2012 年 ) <http://mci-admin.ei.columbia.edu/sitefiles/file/Sustainable-FDI-Guidance-Paper-Kline-FINAL.pdf>.

常に FDI がある方がいい訳ですか？そうではないかもしれません。FDI が誘致を苦勞した後発な開発途上国にも予定されているプロジェクトは経済指標の一時的な増加以上を来すことを請け合う方がいいです。資本を動員して、雇用を創出する FDI のプロジェクトが測定可能な経済の便益を提供しますのに、プロジェクト査定のマトリックスは投資の環境、社会、統治との影響も評価するでしょう。プロジェクトは公共水道を汚染させるか枯渇させるとか、集団を変位させるとか、根強いエリートを強化するかもしれません。そのような FDI は包括的な成長や持続可能な開発について、FDI がない現状と比べて結局出資国を悪くようになるかもしれません。

それぞれの国は重点の開発目標を設定して、FDI が達成する為に何の役割を決定します。出資国が見込み投資家に開発の優先順位を伝えて、FDI プロジェクトはどのような関連目標が影響を及ぼす評価を要求する方がいいです。持続可能な FDI が国も会社も互恵的な結果を必要とすることが認識するので、投資家は社会的な利益を促進する予定を評価して、調整できます。

持続可能な FDI が持続可能な開発に貢献できるけれど、結果は自動でもないでもなくて、確実でもありません。FDI を奨励するマクロ政策の枠組み以内、予定されているプロジェクトのミクロ過程の評価は国家の資源が促進にコミットする前に保証します。明敏な政策決定も効果的な実施プロセスも必要です。

*記事の中身を翻刻場合、以下を含まれる条件: “John Kline 「持続可能な開発を促進する為に持続可能な外国直接投資を評価する」コロンビア外国直接投資展望、No.82 2012 年、11 月、5 日。翻刻する為、Vale Columbia Center に於ける持続可能な国際投資から許可が必要です(www.vcc.columbia.edu)” コピーも Vale Columbia Center に送って下さい(vcc@law.columbia.edu)。*

提出する情報を含む詳細について、連絡してください：Vale Columbia Center に於ける持続可能な国際投資、Jennifer Reimer, jreimer01@gmail.com 乃至 jreimer@lyhplaw.com。

Lisa Sachs の管理した Vale Columbia Center に於ける持続可能な国際投資 (VCC –www.vcc.columbia.edu) は Columbia 法科大学院と Columbia 大学の地球研究所の合弁です。世界経済の外国直接投資に関連する問題の先駆けを求める為に、VCC の焦点は国際投資法や公共政策の外国直接投資含意の分析と指導です。

### **最新の外国直接投資展望**

- No. 81, Ilan Alon and Aleh Cherp, “Is China’s outward investment in oil a global security concern?,” Columbia FDI Perspectives, October 22, 2012.
- No. 80, Jo En Low, “State-controlled entities as ‘investors’ under international investment agreements,” Columbia FDI Perspectives, October 8, 2012.
- No. 79, Lise Johnson, “Absent from the discussion: The other half of investment promotion,” Columbia FDI Perspectives, September 24, 2012.

- No. 78, Elizabeth Broomfield, “Reconciling IMF rules and international investment agreements: An innovative derogation for capital controls,” Columbia FDI Perspectives, September 10, 2012.
- No. 77, Sandy Walker, “A new economic nationalism? Lessons from the PotashCorp decision in Canada,” Columbia FDI Perspectives, August 27, 2012.
- No. 76, Perrine Toledano and Julien Topal, “A good business reason to support mandatory transparency in extractive industries,” Columbia FDI Perspectives, August 13, 2012.
- No. 75, Alex Berger et al., “Attracting FDI through BITs and RTAs: Does treaty content matter?,” Columbia FDI Perspectives, July 30, 2012.
- No. 74, M Sornarajah, “Starting anew in international investment law,” July 16, 2012.
- No. 73, Lorenzo Cotula, “Law at two speeds: Legal frameworks regulating foreign investment in the global South,” June 29, 2012.
- No. 72, Torfinn Harding and Beata Javorcik, “Roll out the red carpet and they will come: Investment promotion and FDI inflows,” June 18, 2012.

以前のすべて「外国直接投資展望」は <http://www.vcc.columbia.edu/content/fdi-perspectives> に見つけれ  
る。